1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600767			
法人名	医療法人社団悠久会			
事業所名	グッデイすぎないグループホーム			
所在地	岐阜県羽島郡笠松町二見町15-1			
自己評価作成日	平成28年6月7日	評価結果市町村受理日	平成28年8月23日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action.kouhyou.detail.2015.022 kani=true&ligyosyoCd=2170600767-008PrefCd=218VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は併設施設として通所介護・小規模多機能居宅介護・居宅介護支援事業所があり、 様々な介護ニーズに対し対応できる体制作りを行っている。そのため、当施設の通所介護や 小規模多機能居宅介護を利用されていた方が、そのままグループホームに安心して入居され ている。また、母体が医療法人であり、医療との連携も密接であるため、医療依存度の高い方 もグループホームで安心して過ごす事ができるのも当施設の強みである。この他、グループ ホームで働く職員全員が正規職員として勤務しており、職員も安心して仕事を行う環境が整 い、高い介護の質も保っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営する事業所であり、デイサービス、小規模多機能型サービス等も運営している。利用者は、入居前から法人の医院をかかりつけ医としている。事業所を住民に開放し、見学、体験などを受け入れており、地域とのつながりに加え、利用者間の交流も盛んである。母体の医療法人との密な連携により、利用者、家族は安心して過ごすことができる。職員と利用者、家族は大きな家族であると捉え「職員の笑顔と優しさは、利用者の薬をひとつ減らす」がホームの合い言葉である。職員は、常に明るい雰囲気で利用者に寄り添い、支援に取り組んでいる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
	項目	↓該当す	取り組みの成果 「るものに〇印		項目	↓該	取り組みの成果 当する項目に〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	3	. ほぼ全ての利用者の . 利用者の2/3くらいの . 利用者の1/3くらいの . ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	O 1 2 3	. 毎日ある . 数日に1回程度ある . たまにある . ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	3	. ほぼ全ての利用者が . 利用者の2/3くらいが . 利用者の1/3くらいが . ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
9	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	O 1 2 3	. ほぼ全ての利用者が . 利用者の2/3くらいが . 利用者の1/3くらいが . ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
0	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	O 2 3	. ほぼ全ての利用者が . 利用者の2/3くらいが . 利用者の1/3くらいが . ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
1	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	2 3 4	. ほぼ全ての利用者が . 利用者の2/3くらいが . 利用者の1/3くらいが . ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
32	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		. ほぼ全ての利用者が . 利用者の2/3くらいが				

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

		一個のより、小型計画来		(C)DPIOCEXITIA, (AILT) T (LINERT) C 9 o J		
自	外	項目	自己評価	外部評価		
己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
П	里念	に基づく運営				
	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業	朝・夕の申し送りで唱和することで意識づけ 実践につなげると共に、月1回のホーム会議	「入居者一人ひとりが地域の中で、あたりまえの暮らしをしながら、尊厳を大切に生活できる」を理念に掲げ、日々のケアを振り返り、話し合い、共有をしている。全職員の研修、新人研修においても課題を設け、理念を基に実践につなげている。		
2		れるよう、事業所自体が地域の一員として日 常的に交流している	地域のお祭りへの参加、老人クラブの訪問などや、施設開催のお祭りは地域住民の方が200名ほど参加して下さり、より一層交流を深め地域へ還元できる事の一つとして積極的に取り組んでいる。	地域密着の意義を重視し、地域の行事や祭り、 老人会などで、住民との交流を行なっている。また、特別支援学校の生徒との交流や、修学旅行 の体験学習の場として、宿泊、食事、全体行動 などの場所提供を毎年行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々 に向けて活かしている	グループホームで生活している利用者様の 理解を求め、地域民生委員様からの相談な どを受け実践経験を活かしている。			
4	(3)		地域民生委員様の多数の参加があり、役所 福祉課、包括支援センター、家族様、利用者 様など意見・要望など話し合い、議題によっ て専門意見が得られるメンバーに参加いた だいてサービスの向上に努めている。	隔月に開催し、行政、地域住民、家族が参加している。地域行事の情報、利用者の状態、地域高齢者の現状について、意見交換をしている。利用者が窓を開け、ベランダに出ようとする行為があったため、ストッパーを設置し、利用者への安全対策と見守りを徹底した。		
		〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取り組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように取り 組んでいる	運営を行う中で疑問・質問などは、その都度 連絡しアドバイスをいただいている。施設内 勉強の講師を依頼、ご協力いただいている。	日常的に行政と連携し、意見交換、指導を得ている。内部研修の講師の派遣や、介護保険の動向についてもアドバイスを得ている。運営推進会議において、地元代表からの意見や疑問点について、説明をしてもらうなど、協力関係を築いている。		
6		玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	会議等にて身体拘束について話し合い正しく 理解し、役所に相談、意見を求めながら家族 様にもご理解いただき取り組んでいる。	身体拘束ゼロに取り組んでいるが、利用者の安全確保のために拘束が必要な場合を想定し、定期的に全職員で学習会を開いている。言葉遣いや支援方法などについても学び、住民の支援と協力を得ながら、利用者が安心、安全に暮らせるよう取り組んでいる。		
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法に ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事 業所内での虐待が見過ごされることがないよ う注意を払い、防止に努めている	をし自宅や事業所内で虐待が見過ごされな			

自己	外	項目	自己評価	外部評価	i
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それらを 活用できるよう支援している	利用者様で活用されている方もおられ支援している。又、他利用者様・家族様等に周知していただくために勉強会開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利 用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分 な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を取り説明を行い、納得を得た上で契約を行っている。又、報酬加算の説明、料金改定等、入所時の契約に限らず必要に応じ説明確認をおこなっている。		
		りを住名に及吹らせている	話し合い質の向上に努めています。口頭に	利用者、家族、職員が大きな家族であることが ホームの方針であり、何でも気軽に話し合うこと を約束し、風通しを良くしている。はじめは意見 が出なかった家族も、意見箱や電話以外でも、 気づきや改善の要望などを率直に言えるように なり、それらを運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させている	掛け職員の意見に耳を傾け、働く意欲の向	管理者は「職員の笑顔が利用者にとっての最高のケアである」という方針に基づき、職員から、勤務体制についての要望や意見を聴き取り、働きやすい職場環境づくりに努めている。器具の不具合や新製品の活用など、職員の具体的な提案を、積極的に受け入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って働 けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の目標を掲げ、職員の日ごろの努力や 実績を認めると共に、向上心を持って働ける 職場作りに努めている。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニング していくことを進めている	職場内研修を段階・レベルに合わせ行い、実 技等、実際の場面にて指導している。外部研 修案内を掲示し意欲的に参加の申し出があ る。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を 向上させていく取り組みをしている	複数事業所との連帯事業に取り組み、同業 事業所とのネットワークができ質向上に取り 組めている。		

自	外	75 D	自己評価	外部評価	i
	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安	心。	と信頼に向けた関係づくりと支援 〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、ご本人様・ご家族様と面談を行う際に、プライバシーの保護に十分配慮しながら安心して相談できる雰囲気作り、お話をしっかり聴き受け止め、信頼関係を築けるようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている	契約前に、家族様の話をしっかりと聴き、家 族様の立場になって、その気持ちを受け止 め、安心して入居していただけるよう努めて います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、 他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態や家族様の要望などをふまえ、包括支援センターや他事業所と連帯しており適切なサービスをできるようしている。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築い ている	グループホームは生活者として生きられるよう 支援する所なので、残された能力を充分に 発揮できる場所を提供できるように話し合い ながら共に支え合い、人生の先輩として尊厳 をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共 に本人を支えていく関係を築いている	職員本位にならず、家族様との関わりの時間を計画するなど、家族様との絆を深めるように努力し良い関係作りに努めています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に努 めている	イサービスや小規模多機能のサービス利用	特別支援学校が開く喫茶店に、月2回出かけ、 地域の住民と交流をしている。併設のデイサー ビス、小規模多機能型サービスの利用者とも、 日常的に交流している。馴染みの商店に買い物 に出かけ、出会いを大切にしながら、関係継続 を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるような支援に努めている	職員が利用者様同士の会話の懸け橋となれるよう心掛け、利用者様が孤立しないよう努め、お互いの状態を理解し合い支え合うようサポートしている。		

自	外	<u> </u>	自己評価	外部評価	<u> </u>
一己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまで の関係性を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に 努めている	退所後の家族様にも行事の案内を出し施設 行事に参加いただくなど、その後の経過を見 守ったり主治医からの協力もいただいてい る。		
Ш.	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ	メント		
	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の 把握に努めている。困難な場合は、本人本位 に検討している	日常のコミュニケーションの中で利用者様の 希望・意向を把握し努めるように努力してい る。又家族様から本人様の生活歴等を伺	一人ひとりの思いや意向を、家族からの情報と日々の支援を通じて把握し、希望にそった取り組みをしている。利用者の趣味、嗜好なども、「家族」として会話しながら寄り添うことで、本人の希望を達成できるよう努めている。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生 活環境、これまでのサービス利用の経過等 の把握に努めている	自分らしく生活できるよう、入居前のアセスメントや趣味、嗜好など把握すると共に、プライバシーに配慮しこれまでの暮らしや馴染みを関係を築きながら、発見したことを付け加え職員会議で話し合いケアに活かしています。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	その人らしく生活していただけるように、生活のリズムひ把握に努めています。職員会議や普段のコミュニケーションの中で利用者様の情報を共有し統一したサービスが提供できるよう努めています。		
26		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあ り方について、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイディアを反 映し、現状に即した介護計画を作成している	のアドバイスも取り入れ、担当者会議をふま	毎日、「気づきノート」を記入し、介護記録などを 基に医師、関係者が話し合いを重ね、介護計画 を作成している。家族、利用者の要望を訪問時 に聴き取り、評価の見直しに活かしている。	介護計画作成会議には、事前に家族と 日程を調整し、家族参加の計画づくり が実現できることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきやエ 夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共 有しながら実践や介護計画の見直しに活か している	個別の記録に記入し、朝・夕の申し送りにて 情報を共有しながらケア方針を決めて実践し ている。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズにあわせ、その時々に応じ入浴時間や食事の形態等、柔軟な支援を 臨機応変にするよう努力している。		

		ファイチとないフル フホ 五	自己評価	外部評価	-
自	外部	項 目			
Ē	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を 把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全 で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援 している	包括支援センター・民生委員様の情報の提供、消防署・町内会の避難訓練の協力、保育所・小学校・レクボランティアとの交流など、いろいろな協力を受けている。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられるよ うに支援している	月2回の定期往診を実施 緊急時は主治医・ 看護師との連帯を図り指示を得ている。往診	利用者は、入居前から法人の医院がかかりつけ医である。本人や家族もかかりつけ医を継続することで、安心して医療を受けることが出来る。月2回の定期往診と、24時間の安心な医療体制がある。他の病院受診には、原則、家族が同行している。	
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な 受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、週1回の看護師の訪問で一人ひとりの健康管理と日常的に医療面の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際し本人様や家族様が安心して治療・ケア等受けられる様に情報など提供医療機関との連携し、退院時には病院関係者や本人様・家族様と退院計画を話し合いをしながら安心していただけるようしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行 い、事業所でできることを十分に説明しなが ら方針を共有し、地域の関係者と共にチーム で支援に取り組んでいる	議を開催し、出来る限り本人様・家族様の意	契約前に事業所の方針を説明し、利用者、家族の理解を得ている。状態の変化に応じて話し合い、家族の意向に沿った支援をしている。胃ろう、経鼻栄養の利用者も受け入れ、終末期の支援にも取り組んでいる。	
34		的に行い、実践力を身に付けている	常日頃からヒヤリハット報告書や事故報告書 にて職員全員で発生要因について話し合い を行ったり定期的な勉強会を行っている。		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関令加の避難訓練実施に同け消防者との連絡調整中。利用者様の身体状況など情報の 提供をしており地域の協力体制ができてい		

自	外	- F	自己評価	外部評価	i
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支 〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバ シーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム会議にてプライバシー保護の取り組 みに関する勉強会を行い、利用者様一人ひ とりの豊富な生活の知恵を十分発揮できる	職員は、人生の先輩である利用者に対し、誇り やプライバシーを損なわない声かけや、言葉遣 いを心がけ、接遇マナーの研修でも学んでい る。名前の呼び方は、心地よく感じられるように 本人、家族と相談して決めている。	
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた雰囲気の中で、馴染みの職員が ゆっくり利用者様の話を傾聴し、職員の価値 観を押し付ける事無く、本人様自身で判断で きるように努めている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	入浴時間・就寝時間、居室の環境など画一的に行うのではなく利用者様の気持ちを優 先した個別ケアができるよう支援し、ケアプランに基づき個別ケアの実践をしている。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	季節に合った好みの洋服を着ていただく支援や馴染みの美容師の来所にてヘアーカット・パーマなどしている。女性利用者様には 化粧のサポートもしている。		
40	(15)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	など家事調理に参加していただき職員と一	気の合う利用者同士が同じテーブルで、職員を 囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。職員 は、経験豊かな利用者から、季節の野菜の調理 方法などを学び、配膳、下膳、テーブル拭きなど は、利用者が役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や カ、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事を提供し、日頃の食事の中で利用者様の嗜好を理解できるように努め、食事摂取・水分摂取の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ た口腔ケアをしている	食後には声掛けをし、利用者様それぞれの カに応じた口腔ケアを行っている。提携歯科 医師の協力や訪問治療も行っている。		

自	外	項 目	自己評価	外部評価	i
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かし て、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支 援を行っている	がつかめ気持ち良い排泄ができている。	利用者の排泄パターンを、ほぼ全員の職員が 把握している。こまめな声かけや誘導で、排泄 はトイレで行うことを利用者が理解し、自立につ ながっている。夜間は安全面に配慮し、布パン ツ、紙パンツを個々に合った組み合わせで使用 し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	日常生活の中で適度の運動を促し、個々の 排便リズムをつかみ出来る限り自然排便を 促すための工夫をしている。		
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入 浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時 間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援 をしている		入浴は利用者にとって、一対一の職員とのコミュニケーションの場でもあり、楽しいひと時である。希望により、シャワー浴、清拭などで、個々にそった支援をしている。一般浴が困難な場合は、法人内の機械浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れ るよう支援している	個々のペースで生活していただき、室温調整と静かな環境に気を配り快適に入眠出来るようにしている。生活のリズムを整え休憩もその時々の状態でサポートしている。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用を理解し服薬には職員一人一人が責任を持って確実に服用できるよう支援している。又、主治医・薬局からの情報提供・指導などある。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援 をしている	一人一人に合った日替わりのレクリエーショ ンや役割・楽しみができるよう支援している。		
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に 出かけられるよう支援に努めている。又、普 段は行けないような場所でも、本人の希望を 把握し、家族や地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している		利用者の健康状態や天候を考慮し、近隣の八幡神社への散歩が日課である。個別の買い物、喫茶店、地域の催しにも出かけている。年間行事では、桜、紅葉、蓮の花、紫陽花見学など、外出の機会を多く取り入れている。	

			自己評価	外部評価	
自己	外部	項 目		実践状況	」 次のステップに向けて期待したい内容
		へれ会の記せ かはることの 主控	美埃狄 河	美 歧认沉	次のスナックに向けて期待したい内谷
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理 解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、 お金を所持したり使えるように支援している	遠足での土産買いや地域のお祭りの屋台で 買い物で自身で品物を選び購入しお金に触 れ支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いなど個人の力に応じて 支援し家族様とのやり取りがある。電話は希 望に応じサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、 浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度 など)がないように配慮し、生活感や季節感を 採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を している	大向スペースのリピングは登珪登頓を心掛 け、居心地がよく、活動しやすい場所とでき るよう努めている。	居間は、車椅子でも安全に移動ができる広さがある。ベランダで洗濯物や布団を干し、家庭的な雰囲気の中、利用者がソファーで、思い思いにくつろいでいる。整理整頓が行き届き、季節の作品や行事の記録写真等は、利用者家族の訪問時の話題となっている。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合っ た利用者同士で思い思いに過ごせるような居 場所の工夫をしている	利用者同士の気の合う、合わないを考慮して、テーブル席についていただいているが、 その日の本人様の気分によって席は自由に 座っていただなど、その用途に合わせテーブ ルの配置も変化させている。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地よく過ごせるような 工夫をしている	いただき、家族様の写真や好きな花を飾り、	入居前に使用していた枕や寝具、作品、家族の写真等を持ち込み、自分らしい居室となっている。職員が工夫して作成した誕生日の賞状やプレゼントを掲示し、季節の花を生け、居心地良く生活できるよう工夫をしている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わか ること」を活かして、安全かつできるだけ自立 した生活が送れるように工夫している	危険防止が利用者様の行動を制限しないよう必要最小限で抑えるよう努めています。利用者の身体状況に合わせ、その都度環境を整えるようにしています。		